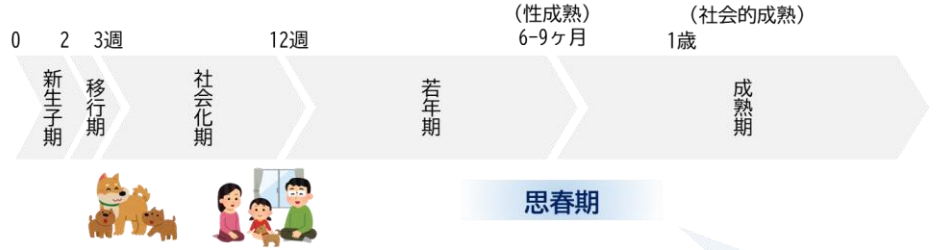


久世明香（行動発達）、茂木一孝（社会神経科学）、菊水健史（社会内分泌）、永澤美保（同調的共生）

研究の背景

イヌは最初の1年で身体的に成熟しますが、ヒトと同様、思春期と考えられる時期があります。



近年の研究で、若年期から成熟期にかけての6-9ヶ月齢頃に思春期を迎えることが分かってきていました。この時期は、自己主張が強くなったり、怖がりになったり、攻撃性が出たり、またオスあるいはメスらしい行動が見られるようになります。

これらの行動は、飼い主を困らせてしまうことが多いものです。対応の仕方によっては犬と飼い主の関係性が悪化し問題行動へと発展する可能性もありますが、どのような環境を提供し、どのように対応するのがよいのでしょうか？



アプローチ

- ・ 1歳未満の犬を対象とし、飼い主に対するアンケートを実施します
- ・ 犬の行動特性、飼養環境、飼い主の対応に焦点をあてたアンケートを作成します



期待される結果

- ・ 思春期の個体差や犬種差を明らかにします
- ・ 飼養環境や飼い主の対応が犬の行動特性にどのような影響を与えるか考察します
- ・ データ解析技術が身に付きます

募集方法

- ・ 募集人数：1~2名

プロジェクトメンバーの一員として責任感を持ち、サンプルデータを丁寧に扱い、コツコツ取り組んでくれる方をお待ちしております！